

# いの流水俳壇

「当季雑詠」

刈谷 志津選

特選

## 春風を胸に水べり一万歩

島村かりん

（評）春風は春になり、東から吹く暖かい風で「春風駢蕩」とも言う。のどかな風に真向かった作者。中七、下五の「胸に水べり一万歩」の措辞より、春の風を胸に抱き、いつものウォーキングコースを歩いているのであろう。水も微湯んだ川沿いの道を春風を携え、うきうきと心はずんだ一万歩。日々の適度なウォーキングは、健康長寿のもと。自身の行動を省略により簡素に詠み上げた。長い俳歴を思わすベテランの秀吟。

## 晴れ渡るダム湖流るる花筏

森岡 照月

（評）見渡す限り雲一つない青空。周りを高い山々で囲まれたダム湖。ダムは利水、発電、治水の目的で人が造った広大な溜息。「花筏」とは、桜の花びらが水面に散り、一塊となつて流れるのを筏に見立てた語。ほかに「花筏」という落葉低木もある。普段は流れもほとんど見えないダムの湖面を飾り、彩る散花。漂いながら、ゆつくりと流れる花筏。桜時ならではの味わい深い風情。青空と花筏を乗せて流れ行くダム湖。美しい写生の一句。

## 一面の蕨畑ごと風に揺れ

片岡 豊子

（評）蕨は、春の山からの美味しい贈り物の一つである。小さい頃「早蕨」を取りに裏山を探し回った記憶がよみがえる。揚句は山に住む作者所有の日当たりの良い、広々とした山の斜面にある蕨畑。二月に畑焼きをして三月の早い芽立を促す。一斉に萌え出た蕨に、折節の山風が、中七、下五「蕨畑ごと風に揺れ」の抽出。まるで赤ちゃんの揺籃を揺るように、すくすくと成長した蕨を見れば、畑焼きの労も吹き飛び、山への愛着を感じ去り難い。

入選

箒目に寄り添ふ春の落葉かな  
満々と流水が運ぶ花筏  
水温む男やもめも捨て難し  
轉や仁淀川原は楽園に  
佐保姫や贈られし旅娘より  
旬の味揃え賑わう花筵  
菜の花に埋まりし中州浮き立てり

二句抄

疏水そば河津桜の並木道  
色違い楽しみ巡る桜かな  
散る桜曇りガラスを拭いてより  
風は春首いそがしきフラミンゴ  
やつかいな吊革確と春の旅  
風つれて貝い母の花の自己主張  
沈丁の香に魅せられて路地曲る  
あさばらけ鶯の声しきりなる  
東風強し畑の覆い持つて行く  
夜桜を見上げほぐるる心かな  
春の野の光りえぐいと回す椅子  
春あたたかつつと走りて紙コップ  
廃枝に歴史を刻む桜かな  
茎立や八十路の命いつまでも  
草餅を姉と求めて桜人  
水張り田心地よしや風一陣  
平成と令和を生きる山桜  
満開の花に誘はれ友の来る  
何時の代からの石垣春田守る  
初桜見たくて山路幾曲り  
糸桜しだれを紡ぐ雨の糸  
平成を行かしむ花となりけり

次題「当季雑詠」

締切/毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1

0893-1922

植田 紀子  
岡村 嘉夫  
東谷 晴男  
津田 久美  
渡邊ゆかり  
川村 博子  
村田佐代湖  
岡村 嘉夫  
東谷 晴男  
津田 久美  
渡邊ゆかり  
川村 博子  
村田佐代湖  
岡村 嘉夫  
東谷 晴男  
津田 久美  
渡邊ゆかり  
川村 博子  
植田 紀子  
津田 久美  
川村 博子  
島村かりん  
森岡 照月  
渡邊ゆかり  
片岡 豊子  
村田佐代湖  
劉谷 志津

## 小児科・内科・整形外科

社会医療法人 仁生会 日高クリニック

診療科目	受付	月	火	水	木	金	土	日
小児科・内科	午前	○	○	休診日	○	○	○	休診日
	午後							
整形外科 (隔週土曜)	午前	--	--		--	--	○	休診日
	午後						休診	

診療時間：午前9時～12時30分  
午後2時～17時30分  
(休診日：日曜・水曜・祝祭日・年末年始)

健診・各種検査  
予防接種など  
ご相談下さい！

## 細木病院グループ



日高クリニック 院長  
松本 和博 (小児科・内科)  
日本小児科学会小児科専門医

有料広告

詳しくは  
ホームページへ



地域の皆様に安心していただける小児科・内科医療を提供します。なんでもお気軽にご相談ください！

外来受付 ☎ 0889-24-7785

日高村 日下小学校東どなり 日高村本郷滝ノ前7